〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉第116号　令和４年(2022)７月１日

資料見聞

観音正寺観音堂の絵馬

曳馬の図絵馬　高知市指定有形文化財　高知市観音正寺観音堂蔵・当館受託　縦139.0、横152.0㎝

高知県内の社寺には絵馬が多く残されています。しかし、現在のところ、中世に遡る絵馬は確認されていません。現存する一番古い絵馬は、正保３年（１６４６）の銘のある、いの町椙本（すぎもと）神社の「朝比奈三郎草摺り引き」です。次いで古いのは、写真の高知市春野町芳原観音正寺観音堂の「曳馬（ひきうま）の図」です。

この絵馬の額部には、飾り金具が付き、画面背景は金箔を押す豪華なつくりです。画面からはみ出す飾り馬、それを必死で御（ぎょ）しようとする二人の馭者（ぎょしゃ）の双方が躍動感あふれる筆致で描かれています。黒い馬と白い装束の対比、加えて馬と二人の視線が一点に集中し、より緊迫感も伝わってきます。

画面左上と下部に「奉掛御寶前／敬白／慶安元年九月吉日／絵師攝州大坂城府忠政　泉州樋口七郎兵衛」とあり、慶安元年（１６４８）、大坂の絵師によって描かれ、「御寶前」とあることから、堂の本尊である観音に奉納されたものと思われます。

観音正寺は観正寺とも称せられ、開山は、行基と伝わります（『南路志』巻十九）。絵馬が奉納されていた旧本堂の観音堂（高知県保護有形文化財）は、高知市春野町芳原の平野部を一望に見渡せる尾根上にあります。二代藩主山内忠義によって慶安元年五月十八日に建立と入佛供養が行われ（『南路志』巻五十八）、堂の再建に関わり、この絵馬が奉納されたと考えられています。

（曽我）

企画展

「絵馬ってなあに？」

会期：令和４年７月15日（金）～９月４日（日）

曽我 満子　梅野 光興

本展では、実物の絵馬や小絵馬、複製品を含む収蔵品をとおして、絵馬について考えたいと思います。

絵馬は、願い事などを書いて神仏に奉納するもので、十二支の動物などの絵が描かれています。神社や寺院によっては、武者や芝居の一場面など、さまざまな絵柄の大型の絵馬が、拝殿の中に掲げられている所もあります。馬の絵馬もありますが、そうでない絵馬もたくさんあります。それなのになぜ「絵馬」と呼ぶのでしょう？

絵馬の歴史をひもとくと、今のようにいろんな絵を描くようになったのは、室町時代のことで、それまでは文字通りもっぱら馬の絵でした。そもそも馬を描いた理由は何でしょうか。

■生馬を献ずる

『日本書記』の皇極天皇元年（６４２）に牛馬を殺して神に捧げ、降雨を祈ったこと、『続日本紀』などには、雨乞いに黒馬、止雨の祈願に白馬を献じたことが記されています。これらのことから、天候、水に関する祈願のために馬が献じられたことがわかります。

■馬形の奉納

また、生馬に代わり、馬形を捧げることも行われるようになりました。それが土馬や木製馬形と考えられています。

高知県内では、四万十市古津賀後川の川床で陶質の裸馬が出土しているほか、当館のすぐそばの南国市岡豊町小蓮字山崎の高知大学医学部敷地内でも、山崎川の河さらえの泥砂の盛土より陶質飾馬が出土しています。どちらも河川に関する祭祀に用いられたと考えられます。

■絵馬出現

絵馬も、馬形のように、神へ奉納する馬を表現したものとして出現したと考えられます。奈良・平安時代には難波宮跡などの遺跡から馬を描いた板が出土しており、文献においては、平安時代の説話集『大日本国法華経験記』に、「絵馬」という名称が見えています。

■多様化する絵馬

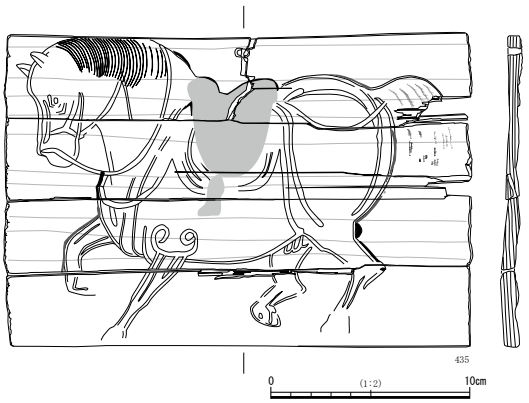
室町時代以降は、馬以外を描く絵馬が増え、大型化が進み、専門の絵師による作が現れます。祈りの要素に鑑賞対象としての要素も加わり、絵馬を掛ける専用の絵馬堂を造る所もありました。

江戸時代になると庶民も大型絵馬を奉納するようになります。

絵馬の画題は本来の馬から武者絵や歌仙絵などへ広がり、さらには、農林漁業などの生業や祭礼、歴史的事件など題材が多様化していきます。高知県でも酒造や漁業、祭礼などを描いた明治時代の絵馬が多数残されており、当時の人々の暮らしや風俗を伝える歴史資料としても貴重です。宮田洞雪など地元の絵師たちが腕をふるい、美術作品としての価値が高いものもあります。

県中央部では、夏祭りなどに絵馬提灯を飾る風習があり、絵馬に関わる民俗として注目されます。

絵馬は、画題や形式を変化させながら、実に１３００年を越える時代を現代まで生き延びてきたのです。



大阪市難波宮跡出土絵馬実測図 8世紀
（『大坂城址Ⅲ』本文編 2006年より　公益財団法人大阪府文化財センター提供）
難波宮跡北西部の谷からは奈良時代の絵馬が30点以上出土、大規模な絵馬を用いた祭祀が行われていたと考えられている。
墨以外の顔料も使用された可能性も指摘され、色彩豊かな絵馬であったと考えられている。

三谷寺の絵馬（高知市有形民俗文化財）
江戸時代　高知市三谷 三谷寺蔵
黒色・赤茶色にそれぞれ彩色された馬２頭は半肉彫り。表面の紀年銘は、寛文８年（1668）。裏には寄進者81名と寛保４年（1744）の補修時の寄進者23名の名が刻まれている。

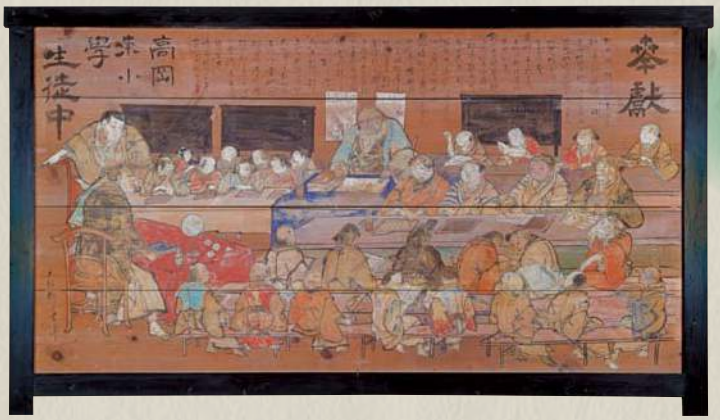
生業を描く

材木流し絵馬　明治12年（1879）
奈半利町有形文化財　奈半利町 法恩寺三光院蔵
川の上流から一本ずつ流してきた材木を河口付近で引き上げ、集材地（土場）に引き上げる様子を描く。左上には、大鋸（おが）を使う木挽きの姿もみえる。
額部に「願成就」「明治十二年□六月吉祥」「山本廉蔵支配明善山人藪惣中」の墨書あり。
山本廉蔵支配の明善山で働く人々が奉納。

地曳網漁絵馬　明治６年（1873）
高知市仁井田 仁井田神社蔵
詳細に描かれた絵馬により、当時の風俗がよくわかる。
引網をひいて網を揚げる人々や獲れた魚をカゴに入れて運ぶ人々など、大勢で地曳網漁を行っている様子が描かれている。男性は鉢巻きにふんどし姿、女性は着物の裾をからげて襷がけが多い。「網元惣中」とあり、網を所有する網元が大漁を願って奉納したものであろう。宮田洞雪（1828-1898）画。

風俗や出来事を描く

小学校授業風景図絵馬（複製）
明治11年（1878）
原資料は土佐市高岡 松尾八幡宮蔵
高岡東小学校の生徒が奉納。同校は、明治５年（1872）の学制発布を受けて、翌６年に旧剣道場を利用して開校した。学制発布のころの小学校の様子がいきいきと描かれている。
高岡郡高岡町（現土佐市）の画工久保南窓（柳太郎）の作。南窓は絵金の弟子。



野地騒動絵馬（複製）　明治時代
原資料は佐川町斗賀野 白倉神社蔵
歴史的事件を描いた絵馬もある。多いのは、日清日露戦争の絵馬だが、自由民権運動を題材にした絵馬もある。選挙運動が激しくなった明治25年（1892）1月29日、高岡郡斗賀野村野地（現佐川町）でおこった民吏両党の対立抗争の様子を描く。右側に民権派、左側に国民派と警官隊が陣取っている。この乱闘で民権派壮士、山崎卯子は即死、西田楠吉は重傷を負い、楠吉の全快を祝って奉納された。

小絵馬に願いを込める

めめ絵馬　昭和時代
山崎茂氏郷土玩具コレクション　当館蔵
小絵馬は、文字どおり小さい絵馬。祈願の内容に結びついたユニークな画題が多い。こちらの小絵馬は、「め」という文字が向かい合っている。眼病平癒を願う、東京都中野区の新井薬師の授与品。

コラム1 絵金の絵馬

那須　望

絵金こと絵師・金蔵は、幕末から明治の土佐で活動し、鮮烈な色彩で歌舞伎などの場面を描いた芝居絵屏風で知られる絵師です。一方で、県内各地には金蔵の描いた絵馬も残されています。そのうち1点が当館所蔵の《弁慶昌俊（しゅん）相騎図》（安政7年（1860）閏三月奉納）です。

土佐坊昌俊は源頼朝の命を受け、義経を討つため京都にやってきます。昌俊の動きを怪しんだ弁慶は、昌俊を無理やり馬に乗せ自らもその後ろに乗って、義経のところへ連れ出すのです。履物も履いていない昌俊からは馬に乗るまでのせわしなさが伝わりますし、眉間にしわを寄せ縮こまる昌俊と刀を持った右手を開き蟹股で馬に乗る弁慶からは両者の力関係の対比も読み取れます。

実はこの絵馬、絵金が参考にしたと推測される元絵があります。それが北野天満宮（京都府）に奉納されている縦約3m、横約4mに及ぶ大絵馬です。絵師は安土桃山時代を代表する絵師で国宝《松林図屏風》（東京国立博物館蔵）などで知られる長谷川等伯です。この大絵馬は慶長13年（1608）奉納、等伯最晩年の作品として、重要文化財に指定されています。絵金の絵馬は大きさこそ異なるものの、構図や弁慶や昌俊、馬の姿勢や顔の向きなどが同じで、等伯の大絵馬を参考にしたことは明らかです。

市井の絵師として独自の道を歩んだように思われがちな絵金ですが、この絵馬からは260年前の巨匠絵師の描いた大絵馬に真摯に向き合おうとする一面が垣間見えます。

弁慶昌俊相騎図絵馬　絵金筆　当館蔵

コラム2 郷土玩具の絵馬

中村　淳子

木や土など身近な素材で作られ、日本の各地で伝えられてきた郷土玩具には、絵馬の古い形を思わせるものがみられます。

奈良市の「手向山八幡宮の立絵馬」や茨城県那珂郡東海村の村松山虚空蔵堂の「真弓馬」がそれで、いずれも鞍などの馬具をつけた馬が板に描かれ、板の厚みや台座により立つようになっています。手向山八幡宮の立絵馬額については、玩具博士と呼ばれた清水晴風の『うなゐの友』（6巻、大正2年、芸艸堂）に絵が掲載されています。

また、郷土玩具には、素材が木に限定されないユニークな絵馬もあります。

高知県にはかつて十二支の紙絵馬があり、十二支を一つずつ描いた十二枚に、十二支全部を描いた一枚を添えて玩具店で販売されていたと、郷土玩具収集家の城田政治さんが紹介しています。

同じく収集家の山﨑茂さんのコレクションには、高知県の郷土玩具作家が純信お馬の悲恋物語を画題にした紙絵馬や絵馬土鈴が収集されています。

絵馬に似て郷土玩具にはさまざまな願いが託されるものが多く、小絵馬も郷土玩具収集家が集める一分野となってきましたが、これらの高知の紙絵馬や絵馬土鈴は、願いを託すというよりも、絵馬の形に着目して作られた土産物のようで、ローカル色が豊かです。

手向山八幡宮の立絵馬　山崎茂氏
郷土玩具コレクション　当館蔵

コラム3 ラジオ「土佐絵馬物語」

梅野　光興

令和2年4月から4年3月までの2年間、RKCラジオで「土佐絵馬物語」と題した番組が放送されました。パーソナリティは高知県民にはおなじみの田村和郎さん。毎回、県内の学芸員や研究者といっしょに神社などを訪ね、地元の方のコメントも交えて、絵馬の見所を紹介しました。当館からも、梅野、中村、石畑が出演しました。

ラジオ局の方が、高知市立自由民権記念館で平成4年に開催された絵馬展や、当館企画展「維新が変えた庶民のくらし」で絵馬を知ったのがきっかけで始まったこの番組。最初は、絵馬の画像が映るテレビならともかくラジオでは肝心の絵が見えないので、どうかなあと思ったのですが、「ラジオは音が想像力を刺激します。放送後、局のホームページで番組の音声を流し、絵馬の写真も出しますよ、最初はどんな絵か想像し、次に実際の絵を見てみる、二度楽しめる番組です」と言われ、何となく説得されました。

私も何本かご一緒しましたが、地元の方に喜んで頂いたのが良かったです。番組の内容はYouTubeでも聞けますので、ぜひ聞いてみてください！

「世界不思議ミュージアム」は続くよどこまでも
―「驚異と怪異」から「異界遺産」へ―

梅野　光興

特別展「驚異と怪異」（令和4年4月29日（金・祝）～6月26日（日））は、県立美術館の企画展「佐藤健寿（けんじ）展　奇界／世界」（令和4年6月18日（土）～9月11日（日））とコラボして「世界不思議ミュージアム」を立ち上げました。と言っても、もちろんそんな博物館があるわけではありません。二つの展示を見た人の個々人の頭の中に形作られるイメージを、どこにも無い、あなたの頭の中だけに存在する架空の博物館として「世界不思議ミュージアム」と名付けてみたのです。

この話は昨年の秋頃ひょんなことから始まりました。来年歴民は「驚異と怪異」を予定していると言うと、美術館では、世界中の奇妙で不思議なものを撮影している写真家・佐藤健寿さんの企画展を計画中とのこと。怪しいもの、不思議なものという点では二つの展示は共通点があります。時期が微妙にずれているのが難でしたが、二つの展示をあわせてプレゼンするのも面白いのでは、と思いはじめ、二館の学芸員が何回かミーティングを重ねました。

最初に考えたのは「今年の歴民と美術館はなんだかアヤシイ」というキャッチコピー。「なんだか」は「ちょっと」でも「かなり」でも何でも良いのですが、歴民と美術館が組んでなんか変なことやってるよ、と思われたら良いな、ぐらいの発想でした。

ところが、二つの展示は意外と深いところで繋がっていることが次第にわかってきました。

まず、佐藤さんの作品には日本や外国の風習や儀礼が写し出されており、展示には国立民族学博物館の資料も加わることになっていて、素材の重なりがあります。その関係か、佐藤展の図録に、「驚異と怪異」展の実行委員長である国立民族学博物館の山中由里子先生が寄稿されることになりました。読ませて頂くと、世界のさまざまな不思議や人間の想像力を再評価する点で、二つの展示がシンクロしていることは明らかでした。

「驚異と怪異」チラシ

「奇界／世界」チラシ

イベントとして、お二人の対談が実現できたらベストだね、と話していたら、山中先生の方から、図録の打合せで佐藤さんに会って、高知で何かできないか、と盛り上がったとのお話。こうしてお二人のクロストークが実現することになりました。何と運が良いのでしょう！

さらに両者を結びつける方法は無いだろうか？展示を見たり、関連企画に参加してスタンプを集める案が自然に出てきました。スタンプの図柄には、佐藤健寿さんの『世界不思議地図』の阿部結さんのイラストが魅力的で良い！というのも全員一致。

二つの展示をつなぐ仕掛けとして、「驚異と怪異」、「奇界／世界」はそれぞれ水天地やテーマで分類されていますが、両者を、アジア、オセアニアなどのエリアごとに同じページで紹介してはどうだろう？と思いつきました。このコンセプトは『世界不思議地図』からのイタダキですが、スタンプ帖のタイトルも頂いて「世界不思議手帖」にしました。これで、エリアごとの文化や想像力の特徴が見えてくれば、展示をさらに深く味わえます。

「世界不思議手帖」表紙

そして佐藤さんが高知オリジナルの撮影対象に選んだのは、何と香美市物部町のいざなぎ流。ふだんは歴民で展示している仮面や新作の祭壇が美術館にお目見えするというクロスオーバーな展開に。スタンプ設置場所に奥物部美術館の「いざなぎ流御祈祷」展も加わってもらい、阿部さんにそのための新作イラストも作って頂きました。

しかしながら、「佐藤健寿展」で初めてこのコラボ企画を知った方には、「驚異と怪異」展はすぐに終わるので、夏休みに歴民に誘導するネタが無い！

そこでコーナー展「異界遺産」（7月8日（金）～9月11日（日））を行うことになりました。もちろんタイトルは佐藤さんの代表作『奇界遺産』のイタダキですが（佐藤さん、ごめんなさい！）、館蔵資料を中心に、葬送、妖怪、いざなぎ流、信仰など高知県の異界資料を紹介します。夏休みもぜひ歴民に来てください。

1年前から両館の学芸員で作りあげた初のコラボ企画もまもなく終わりです。ちょっとさみしい気もしますが、大丈夫！

「世界不思議ミュージアム」は、あなたの頭の中の博物館。あなたが世界の不思議を知ろうと思う限り、このミュージアムはいつまでも続くのですから。

資料紹介

木屋看板『諸國種物品々』

青井　恵理香

当館に新しく寄贈いただいた資料をご紹介いたします。

資料は、高知城下において藩政期から昭和初期にわたり続いた商家・竹村家（屋号・木屋）に伝わっていた看板です。寄贈者は竹村家の血縁者にあたり、他家へ嫁ぐ際に持参品のひとつとして持って出たほど大事にされ、高知市を襲った空襲の際には蔵に入れ、守り抜いたという奇跡の逸品です。

当館には他にも木屋看板を寄託・寄贈いただいておりますが、「諸國種物」を扱っていたとする看板はこれが初めてです。

金物商として出発した木屋二代目・只右衛門正富の時分に土佐藩公認の砂糖大問屋へ成長したあと、明治16年（1883）に木屋の家督を相続した五代目・與右衛門正武が事業を拡大させ、この時、「諸國種物」の販売を行うようになったようです。

国立国会図書館デジタルアーカイブでも閲覧可能な『南陽高知商之便覧』によれば、明治20年（1887）には「諸国種物」を「土佐竹村與右エ門店」で取り扱っていることが伺えます。

古くとも看板は、明治20年頃には製作されていたものと考えられ、文字や表面の摩耗具合からも長い間、木屋の商売をよく支えていたことがしのばれます。

種物とは野菜の種のようで、竹村家所蔵の種子目録によれば、大根や蕪、菜などの種を江戸練馬、京都聖護院（しょうごいん）、近江などから取り寄せて販売していた様子が見られます。

これらの種物は、年を越すと「木屋は新種しか扱わない」というパフォーマンスのために毎年一度決まった日に、店横を流れる新堀川に投棄することが、菜園場町の風物詩になっていたということです。

今後、常設展示やコーナー展での展示を考えております。

参考文献：
三田到十郎編『南陽高知商之便覧』国立国会図書館蔵 明治20年
竹村守順・竹村守雄『商家「木屋」とその時代―高知・竹村家の一時代―』平成23年

木屋看板
縦 121.4㎝
横 32.3㎝
かける部分は
鉄製で
高さ 6.4㎝
幅 18.0㎝

●新任のご挨拶　総務事業課長　中村 真一

この4月から歴民館総務事業課長を務めさせていただいております。

今年度は、新型コロナウイルス等のため昨年・一昨年と開催を見送りました「岡豊山さくらまつり」を4月3日に、GWには5月3日の「れきみんの日」を含む6日間「れきみんワンダーデイズ」と称し、日替わりのワークショップや幻獣クイズ、トークショー、岡豊山ガイドなど多彩なイベントをいずれも感染症対策をとりながら開催することができ、多くの方々にご来館いただきました。また、4月29日から6月26日まで、『特別展「驚異と怪異」－世界の幻獣と霊獣たち－』を開催いたしました。

博物館の勤務は初めてですが、裏方として、今後も皆様に安心してご来館いただけますよう、しっかりと新型コロナウイルスの感染症対策をとりながら、郷土の歴史等について学習できる憩いの場を提供してまいります。一人でも多くの方のご来館をお待ちしています。

●着任のご挨拶　学芸課長　林 香

この4月に県教委から派遣され、学芸課長を務めさせていただいております。歴民の一員として、初めての経験をたくさんさせていただいております。

当館に来て早速イベントに参加させてもらいました。「さくらまつり」は、何とか天候にも恵まれ、県内外を問わず、多くの方々に美しい桜の景色を楽しんでもらいました。「れきみんワンダーデイズ」は、今までよりも多くの来館者があり、お客様から大変楽しめたというお言葉も頂き、やる気も湧いてきたように思いました。また、「岡豊山城跡めぐり」に参加し、眼下に広がる雄大な景色や竪堀群、横堀などガイドの話術に魅せられ、中世山城の様子を想像することができました。改めて多くの方々に城からの風景を楽しんでいただきたいと思いました。

当館での私の目標の一つ目は、歴史民俗資料館をより身近なものとして認識してもらうことです。多くの方々に足を運んでもらいお客様のお声に耳を傾けながら資料館の活動内容を充実させ、整備や資料収集に力を入れていきたいと思います。二つ目は、これまでの教職の経験を生かして、小・中学校の社会科の学習に加えて、さらに歴史民俗資料館の歴史学習や体験学習を通じて、歴史を主体的に学ぼうとする子どもたちを育てていきたいと思います。

●新任のご挨拶　学芸員　青井 恵理香

この4月から歴史担当の学芸員を務めさせていただいております。

国史跡・岡豊城跡に建つ「土佐の歴史に出会える博物館」として、諸先輩方が大切に丁寧に積み上げて来られた当館の歴史も大事にしていきながら、資料の調査研究に邁進し、日頃からご愛顧くださっております皆様に少しでもその成果が還元できますように日々研鑽をコツコツと重ねてまいります。

新型コロナウイルスの流行に終わりがみえない中、不安をかかえていらっしゃる皆様の暗澹としている心が少しでも晴れますよう高知県立歴史民俗資料館では様々な展示や催しを企画しております。

館内をごゆっくり観覧いただいたあとは、長宗我部氏が城をかまえた岡豊山から南国市の広々とした平野や太平洋を眺め、昔といまが交錯する不思議なひとときをぜひご堪能いただけたらと思います。皆様のお越しをお待ちしております。

令和4年 れきみんワンダーデイズ

4／29(金・祝) 4／30(土) 5／3(火・祝) 5／4(水・祝) 5／7(土) 5／8(日)

今年のゴールデンウィークは、イベント「れきみんワンダーデイズ」を開催しました。特別展「驚異と怪異」の関連企画として、「幻獣」に注目し、「幻獣クイズ」や「幻獣ウォーク」、「幻獣セミナー」などのメニューを取りそろえ、6日間で3，331名にご来館いただきました。

開館記念日の5月3日「れきみんの日」には、香我美町徳王子の若一王子宮獅子舞保存会による獅子舞が、大勢の観客を魅了しました。

また、れきみんの日の恒例メニュー「岡豊山ガイド」を期間中に連日実施したほか、「世界のキッチンカー」が日替わりで登場。幻獣のふるさとの料理をお楽しみいただきました。（中村）

▲ 4月30日・5月8日
土佐の幻獣・民話紙芝居
県立文学館のカルチャーサポーターさんによる牛鬼や山父の紙芝居

▲ 4月29日～5月1日
インスタフォローでカッパマスクをプレゼント！職員もカッパマスクでお出迎え

▶5月3日
獅子舞
手がい役の「ハナ」に眠りを覚まされ、激しく舞う獅子。伝統芸能に会場が湧いた

◀ 世界のキッチンカー
ナポリピッツァはセイレーン、韓国屋台料理には狛犬など料理のふるさとの国にちなむ幻獣をパネルで紹介

▶ 4月30日
幻獣仮面をつくろう！
長いヒゲがチャームポイントの龍ができた！5月4日に幻獣びっくり箱、5月7日に万華鏡づくりも

れきみん！ サマーミュージアム ～岡豊へいこう！レッツゴー！～

令和4年7月27日（水）・8月12日（金）・8月27日（土）

今年度のテーマは、「岡豊へいこう！レッツゴー！」です。

高知県は昨年より1ヵ月以上も遅い6月13日ごろの梅雨入りとなり、統計をとりはじめて最も早い6月28日ごろの梅雨明けとなり、暑い日が続いています。7月の夏休みが、すぐそこに来ています。歴史民俗資料館では、夏の催しとして恒例のサマーミュージアムを開催します。子どもたちはもちろん、ご家族みんなで楽しんでいただけるさまざまなプログラムをご用意していますので、その一部を紹介します。

まず、毎年恒例の「クイズに挑戦」です。企画展やコーナー展から出題します。クイズを通して新たな発見が続々。加えて、謎解きゲームも登場する予定です。ぜひチャレンジしてみてください（要予約）。また、学芸員によるミージアムトークも各日とも午前・午後に実施しますので、お聞き逃しなく。

そして、夏休みの宿題のお役に立てるように、今年も恒例の高校生などによるモノづくり体験を実施する予定です。ご家族での参加も大いに歓迎します。現在、プログラムを準備中ですので夏休みの予定にお入れください。（要予約）。

期間中、水てっぽう、竹とんぼづくりの体験も行います（数量限定）。素朴な昔遊びにはまってしまうかも。

さらに、夏休みの期間中は「教えて！学芸員」を随時受け付けます。「博物館ってどんな仕事をしてるの？」「長宗我部氏のことに興味があるので、教えて欲しい」など聞いてみたいこと、知りたいことがあれば学芸員が丁寧に対応します。ぜひ利用してください。その他、当日のお楽しみメニューもたくさん準備してお待ちしております。（林）

『土佐のまほろば歩（うぉー）く。 ーいにしえの土佐のまほろばー』

今年度のテーマは、「時代」。気候や地形、水に恵まれた土佐のまほろば地区のそれぞれの時代の史跡を訪ねる企画です。

第1回は雨天のため中止。第2回は5月17日（火）、古代の史跡などを回りました。比江廃寺塔跡に残る石（心礎）の穴の径から計算すると塔の高さは約32メートルであったと想像され、法隆寺の五重塔と変わりません。当時の建築技術の粋を集めた寺院が建立されたこの時代、この地が土佐の中心地であったことがうかがえます。

さらに、10、11月には古墳ブームを南国から起こすべく、2回連続の古墳時代を特別解説の講師もお招きして開催予定。来年1月には特別編として、戦国時代の岡豊城跡の遺構、枯葉に埋もれた堀切を清掃してよみがえらせる企画もあります。ぜひご参加ください。（総務事業課）

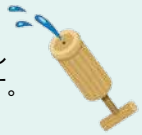
比江廃寺塔跡

●申込受付開始　8月2日（火）9時から　参加費　各回500円

れきみん！サマーミュージアム2022
岡豊へいこう！レッツ・ゴー！

7月27日(水)・8月12日(金)・8月27日(土)

夏休みの期間にあわせて、企画展・コーナー展に関連した催しや、お子さんも楽しめるワークショップを開催します。お誘いあわせのうえ、ご来館ください。



民家で囲炉裏の火焚き

岡豊山歴史公園に移築した茅葺屋根の山村民家で、定期的にいろりに火をいれます。
7月16日(土)、8月20日（土）、9月17日（土）
9：30~12：00

土佐のまほろばウォーク2022 ―いにしえの土佐のまほろば―

- 10月27日（木）「古墳時代に思いを馳せる①」
- 11月27日（日）「古墳時代に思いを馳せる②」
- 令和5年1月29日（日）
  特別編「戦国の山城遺構に触れる」

8月2日（火）9時より受付スタート
詳細は当館HPをご覧ください。

予告

次回企画展

武吉孝夫写真展
―高知県の山村を歩く―

10月7日(金)～12月4日(日)

武吉孝夫氏による記録写真の中から、過疎の波にのみ込まれつつも、たくましく生きる土佐の山村の人々の姿が写し出された作品を展示します。

梼原町田野々

岡豊風日（おこう・ふうじつ）第116号
令和４年(２０２２)７月１日
編集・発行　(公財)高知県文化財団
高知県立歴史民俗資料館
〒783－0044
南国市岡豊町八幡１０９９－１
ＴＥＬ　０８８(８６２)２２１１
ＦＡＸ　０８８(８６２)２１１０
開館時間　午前９時～午後５時
休館日　年末年始12月27日～1月1日
臨時休館6月27日～7月2日
観覧料　〔通常展〕大人（18才以上）４７０円
団体（20名以上）３７０円
〔企画展〕通常展示込み　５２０円
団体（20名以上）４２０円
無料：高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者（1名）
印刷・川北印刷株式会社
https://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/
Eメール：rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

企画展 絵馬ってなあに？

7月15日(金)～9月4日(日)

当館の所蔵品を中心にバリエーション豊かな絵馬の世界をご紹介します。

鰹の一本釣り絵馬（複製）
原資料は中土佐町矢井賀大神宮蔵

企画展関連催し

❶学芸員による連続講座１「描かれた願い・暮らし－絵馬の絵を読みとく－」
日時：7月18日(月・祝) 14:00～15:30　先着60名
講師：中村淳子

❷学芸員による連続講座２「馬から絵馬へ－絵馬の歴史を考える－」
日時：7月31日(日) 14:00～15:30　先着60名
講師：梅野光興

❸学芸員による連続講座３「絵師たちの絵馬－絵馬の描き手を追う－」
日時：8月6日(土) 14:00～15:30　先着60名
講師：那須望

❹ワクワクワーク「絵馬をつくろう」
講師：中村達志氏（日本画家）
日時：8月12日(金) 13:00～16:00　先着12名
参加費：500円

❺ワクワクワーク「いろいろな絵の具を知ろう！」
講師：中村達志氏（日本画家）
日時：8月27日(土) 14:00～15:00　先着12名

❻担当者によるミュージアムトーク
8月7日(日)、14日(日)、27日(土)
各回とも14:00～14:30

※すべて要観覧券、❶～❺は要事前予約

歴民館×美術館「世界不思議ミュージアム」関連展示

コーナー展

異界遺産

7月8日(金)～9月11日(日) 3階総合展示室

わたしたちの住んでいる世界をちょっと離れて、神と妖怪のいる世界やあの世を少しのぞいてみませんか。

県立歴民館×県立美術館コラボ企画

世界不思議ミュージアム

世界の奇妙な風景を写した高知県立美術館の写真展「佐藤健寿展　奇界／世界」(6/18～9/11)、美術館ホールの「奇界な映画」(8/20.21)、そして奥物部美術館企画展「いざなぎ流御祈祷」(～9/30) をつなぐスタンプラリーを開催中です。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、催しを中止・延期・内容を変更する場合があります。